

久納会計 FAX ニュース



Kunoh Accounting Office
久納公認会計士事務所

2017年2月号 今年はどうな年

今回のFAXニュースは干支と過去の出来事から今年の推測を行うものです。ちなみに今年の干支は丁酉（ていゆう、ひのと・とり）となります。

昨年の振り返り

今年の干支を考える前に昨年を振り返ってみます。昨年は「少々極端かもしれませんが、これまでの常識が吹き飛ばような大きな動きがある年になるかもしれません。ただ、これが良い方向なのか、悪い方向なのかはわかりません。どちらも可能性があります。また、十干でいえば丙は3年目になるため、今年はこの先7年を方向付ける年となります。」としました。

はからずもイギリスのEU離脱、アメリカ次期大統領にドナルド・トランプが選ばれるなど、世界があっと驚くようなことが起きました。これが良いことなのか、悪いことなのかわかりませんが、干支からの推測も当たっていたように思います。

丁（ひのと）の意味

それでは、今年の干支です。干支は、「十干」と「十二支」の組み合わせで、十干の方が主（幹）、十二支の方が従（枝）となります。そして、この十干は植物が芽を出し、成長し、枯れていく様子にたとえられ、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十字となっています。今年の「丁」は十干の四番目に当たり、前年の「丙」に続き、成長力のたくましさを受け継ぐものです。

漢字語源では、「丁」を「面に対してT型の直角に立てた状態」の象形とあり、ある一点に直角にささるクギ状を表し、釘の原語としています。

「丁」はまた、「さかんであること」を意味し、働き盛りの壮年を呼ぶ漢字になっています。

安岡正篤先生は、丁は「一」と「丨」から出来ており一は従来の代表的な動きが続いていることを表し、「丨」はその在来の勢力に対抗する新しい動きを示している。つまり「丁」という字は新旧の衝突を意味している、としています。

酉（とり）の意味

十二支の方は「酉（とり）」、十二支の中の十番目です。「酉」の漢字は、「酒がめ」を表し、酒がめの中で麴（こうじ）が発酵する様子を表します。中に醸（かも）されている新しい勢力の爆発、蒸発を示し、新しい革命勢力が作られることを表します。昔から革命が多いのも酉年となっているようです。それでは、過去の丁酉の年を見ていくことにします。

1957年（昭和32年）の出来事

1957年の出来事としては、岸内閣の成立と国連加盟、東海村原子力発電所に初めて「原子の火」がともった年でもあります。大阪では後にダイエーとなる「主婦の店ダイエー」が開店、セルフサービスのスーパーマーケットが登場しました。日本の国産ロケット第一号が発射成功しましたが、世界初の人工衛星スプートニク号が打ち上げられた年でもありました。

この年の7月から始まった不況は「なべ底不況」と言われ、不況の長期化が懸念されましたが、予想に反し翌1958年7月以降は回復しました。

1897年（明治30年）の出来事

明治30年の出来事としては、足尾行動区鉱山事件、金本位制の実施、京都帝大の設立、八幡製鉄所（後の新日鉄）開所。初の国宝指定（法隆寺金

色堂、中尊寺金色堂) などがありますが、それほど荒れた年ではありません。

60年前、120年前の丁酉の年はそれほど荒れた年ではなく、むしろよい方向に向かった年のように見えます。ただ、180年前の1837年(天保8年)は、大阪で大塩平八郎の乱があった年にあたり、騒乱の年といえるようです。

今年の予想

今年の予想としては昨年からの流れを引き継ぎ、動きの大きい年になると予想されます。「丁」にしても、「酉」にしても新旧勢力の対立を暗示しています。力と力のぶつかり合いから、対立・騒動・混乱はさらに拡大するようには思います。

こうしたことの一番の台風の目はどうみても「トランプ大統領」でしょう。アメリカ・そして世界が荒れることによる日本への影響が懸念されます。

来年の予想

はたして、この混乱は収まって行くのか、それともさらに来年以降も続くのかを、かなり気が早いですが、来年の干支から予測してみようと思います。

来年の干支は戊戌(つちのえ・いぬ)です。戊は十干の5番目で、大きな刃が付いた戈(ほこ)の象形です。戌は、これに草冠のついた茂と共通し、「茂る、繁茂する」という意味を持ちます。戌は植物が繁茂するように、物事が反映し、複雑化するに従い、無駄を省き、簡略化することに努めることを意味します。

また、戌は十二支の11番目です。この戌は、戊(つちのえ)に一が加わったもので、戌が茂るを意味するように、戌も同義となっています。ただ、それに一陽を示す一が付いています。戌は、枝葉末節が茂って、日当たり悪くなり、風通しも悪い状態を示します。ひいては過剰を意味し、枝葉が茂りすぎると木が傷みます。そこで庭師は思いきってこれを剪定し、日当たり・風通しを良くし、

木を生かします。これはまだ木にそれだけの生氣(陽)が残っているからであり、中の「一」はその陽気を表しています。

来年は奇しくも「戌」と「戌」という、同じような意味を持つ十干・十二支が重なります。ということは、より強力にこれらの文字が暗示する方向に向かうことを意味していると考えられます。したがって、来年は現状の新旧交代・対立・混乱が拡大(繁茂)するものの、それが整理・単純化されていくことになると思われます。ただ、この整理・単純化もうまくいかないとさらに混乱を広げる可能性もあり、油断は出来ません。

当事務所の取り組み

いきなり小さな話となり恐縮ですが、私どもの事務所としては、今年はさらなる電子化に取り組んでいきたいと考えております。

昨年の改正により領収証などのスキャナ保存が認められました。しかし「認証されたタイムスタンプ」が必須となるなど、当初予想したより導入コストかかり簡単ではないようです。ですが、保管場所・保管期間の問題を解決するためには電子化を進めていく必要があると考えております。

また、最近ではテレビCMで「マネーフォワード」だとか、「フリー」といった名前を聞かれた方も多いと思います。これらはネットバンキング、クレジットカードなどの電子データを取り込み、会計データに変換していくものですが、こうした仕組みを使いながら、お客様の業務の効率化を進めて行くことを計画しています。

いずれにしても、お客様とともに、よりよい経理の仕組み作りを進めていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

(以上)

参考文献

安岡正篤著『干支の活学』(プレジデント社刊)

干支歳時記(越玄さんのホームページ)

ウィキペディア、各種年表など